



編集委員

委員長:高梨 晃一(東京大学名誉教授)

委員:隈 研吾(建築家)

委員:佐々木睦朗(構造家)

委員:手塚貴晴(建築家)

委員:西沢立衛(建築家)

委員:臼田 哲男(編集者)

委員:澤泉紳一(日本製鉄)

委員:村上 行夫 (JFE スチール)委員:吉本 隼 (日本製鉄)

委 員: 植戸あや香 (JFE スチール)

委員:寺澤伸治(神戸製鋼所)

委員:入江 剛(神戸製鋼所)

細い鉄骨フレームが 重なり合い 薄く広がる空間をつくる

平田晃久(平田晃久建築設計事務所) 外木裕子(平田晃久建築設計事務所)

花輪優香(平田晃久建築設計事務所)

荒木美香 (荒木美香構造設計事務所 現Graph Studio)

入江 剛 (編集委員・司会)

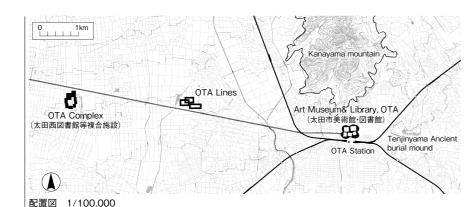
「OTA Lines」は群馬県太田市の国道沿いに建つオフィス、レストラン、ギャラリーからなる複合施設。敷地隣には鉄塔が建ち、その風景に呼応するように細い鉄骨の線で構成された建物が広がっている。グリッド状に組まれた鉄骨フレームの間には、オフィスや中庭、テラスなど、さまざまな空間が配置されている。構造体でありながら、重さを感じさせない軽やかなフレームを実現させた工夫や各部の納まりなど、設計者にうかがった。

鉄塔のある風景

まず、この建物を手掛けた経緯とコンセプトを教えてください。

平田●この建物が建つ群馬県太田市の太田駅前に、2016年に「太田市美術館・図書館」を設計しました。その時、設計の重要な決定をデザインセッションというかたちで市民ワークショップで行ったのですが、そのワークショップで知り合った方から、この建物の設計を依頼されました。奥様が経営する会社のオフィスと研修施設、レストラン、そしてご本人が所有されているギャラ





リーを合わせた複合的な建物です。

現在我々は太田市で「太田西図書館等複合施設」を設計しています。この「OTA Lines」の敷地は2つの図書館を結ぶ国道のちょうど中間あたりにあるという偶然も重なり、我々としては嬉しい依頼でした。

敷地に最初に行って驚いたのは、敷 地の横に大きな鉄塔が建っていたこと です。敷地は鉄塔を抱くように広がっ ていました。鉄塔の隣に建物を設計す ることは想像したことがなかったので、 面白いなと思いました。

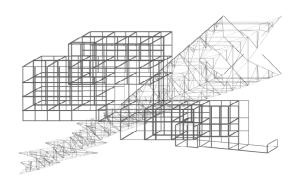
以前から美術館・図書館の設計で太 田市には何度も通っていました。太田 はかつて中島飛行機があり、それが後 にスバルになるのですが、見渡す限り の関東平野の中に工場や飛行場があり ました。今も自動車産業の街として工 場が多く、平原が広がる大きな風景の 中に鉄塔があったり、高速道路や利根 川周辺の橋梁といった土木構造物など、



| 国道沿いの南側立面 鉄骨フレームで構成された建物が東西50mほどに広がる



平野の中に工場や鉄塔が点在する太田の風景



OTA Linesと鉄塔を合わせたアイソメトリック

インダストリアルなものがたくさんあります。見方によってはすごくかっこよくて、日本ではないような風景なのです。突然景色が開けたり、時間によって日の当たり方で景色がまるで写真のようにすごく美しくなる瞬間があるのです。そういう大きな広がりを感じる太田の雰囲気を、そのまま引き継いで建物をつくることにしました。

建物を薄く引き伸ばす

どのように建物のかたちを考えていったのでしょうか。

平田●敷地の横には人間のスケールを 遙かに超えた鉄塔が立っています。こ の建物は延床面積が約500㎡ですが、 その建物がそのままひとつの塊として 建っていたら、鉄塔のスケール感や広 がりのある太田の風景の中には合わな いと感じました。茫漠とした風景の かっこよさと響き合うためには、建物 も薄く引き伸ばしたような、どこまで も広がっていくような雰囲気をもって いるほうがいいと思ったのです。

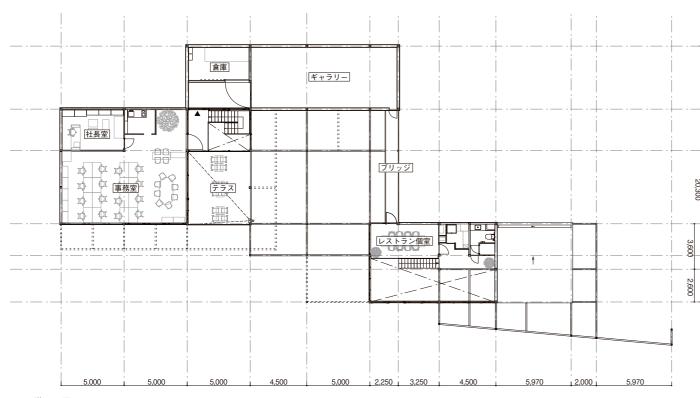
鉄塔は高さが70mもあり、それに 高さで対抗しても勝ちようがないので、 こちらは低く薄く、地面にへばりつく ように広がっている建物を考えました。 そして、それは建物の内部空間だけ だとあまり大きな面積にはならないの ですが、鉄骨の細い線でできた広がり の中に、庭など屋外空間も囲い取るこ とで、空間が漂い、大きくたなびくことをイメージしました。

では初めから鉄骨造で考えていた ということでしょうか。

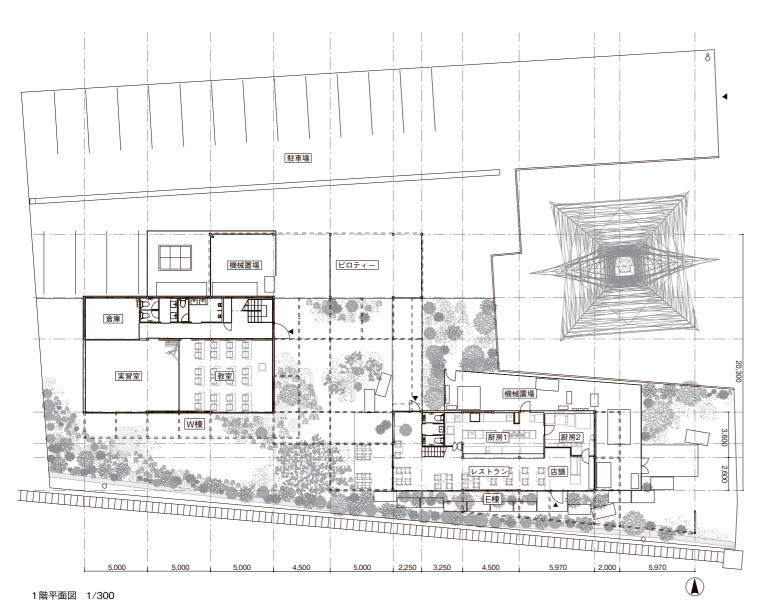
平田●はい。太田の大きな風景の中に インダストリアルなものがたくさんあ り、乾いたイメージがあったので、や はり乾式でものができていく感じがい



スチールデザイン No.42



2階平面図



中庭とオフィスが入るW棟を見る 鉄骨がグリッド状に組まれている

いと思い、鉄骨造にしました。

鉄骨の梁がいろいろな高さで見え ています。

平田●オフィス、レストラン、ギャラリーとそれぞれ必要な天井高が少しずつ違いますし、いろいろな高さのものが複層していくようなものを考えました。グリッド状のフレームが雲母のように薄く重なり、鉄塔の影とフレームの影が重なっています。

鉄骨のシステムとしては、複数のレイヤーがあり、フレームが絡み合うようにひとつの建物を構成しています。

外部のフレームの一部は空間をつくっているわけではない箇所もあるので、「それは無駄じゃないか」と施主に言われてしまえば実現できないのですが、建築的な屋外というものに対してすごく共感してくださったので、この方向で進めました。

僕らもあまりこういう構成の建物を 設計したことがなくて、太田の風景に 触発されてこういうことを考えました。 ただそうするとフレームがすごくきれいじゃないとダメだなと。そこで、構造は荒木さんにお願いしたいと思いました。

外木●荒木さんとは陸前高田の「みんなの家」を一緒に設計したのですが、その時にすごく優秀な方という印象がありました。当時はまだ佐藤淳さんの事務所にいらしたのですが、今は独立されています。

鉄骨をきれいに見せる

設計の初期の段階から、意匠・構 造一緒に設計されたのでしょうか。

平田●この建物は本当に初期からです。 ほとんど鉄骨フレームでできているような建物ですから、このアイデアに なってきた時に構造家を入れないとで きないし、一緒に進めていかないと実 現できるかわからない感じがしました。

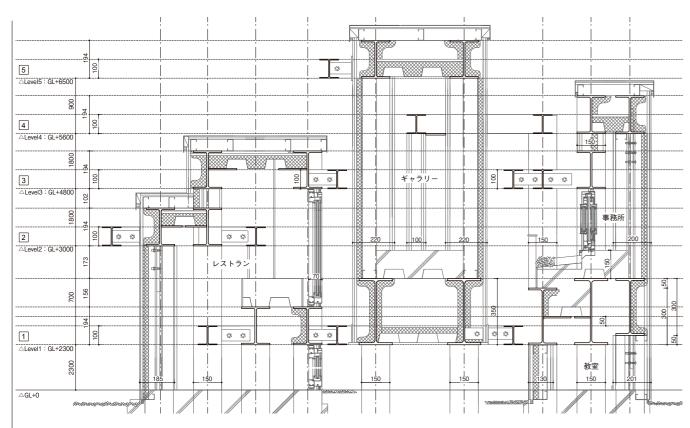
ではここで構造の概要をご説明いただけますでしょうか。

荒木●構造は鉄骨ブレース構造です。 2階建てですが、梁の基準レベルがGL を除いて5種類あり、柱に対して梁が 多様なレベルであみだくじのように接 合するのが特徴です。これが、柱の座 屈長さを短くする、温度応力の影響を 分散するといったメリットを生んでい ます。

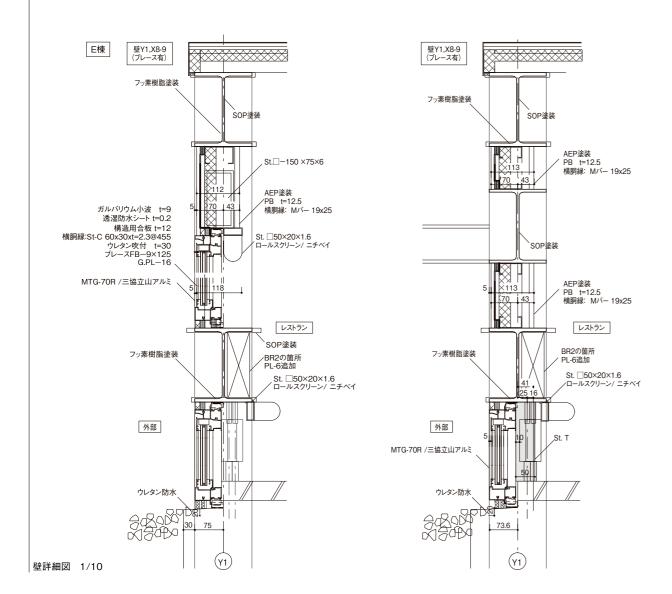
レイヤーがたくさんあるので複雑に 見えるかもしれませんが、仕組みとし てシステマティックで非常にシンプル なグリッドでできています。

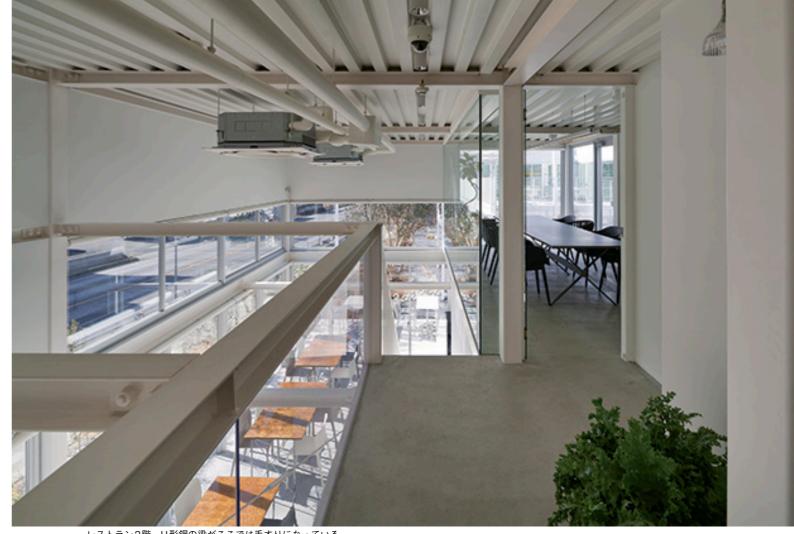


6 スチールデザイン No.42



断面詳細図 1/20





レストラン2階 H形鋼の梁がここでは手すりになっている

鉄骨フレームをきれいに見せるた めにこだわった点、気をつけた点 を教えてください。

平田●やはり接合部は金物が付いてど うしても節くれ立ってくるので、そこ をどのようにして目立たなくするかは 当初から相談していました。

荒木●鉄骨で普通に組むとダイアフラ ムがたくさん出てきてしまうのですが、 今回は鉄骨がほぼ現しになるので、接 合部がすっきりとしたディテールにな るようにしました。

それから、意匠的なコンセプトに関 わるのですが、柱の幅と梁の幅をでき るだけ統一していきました。

松田●梁は場所によってサイズが違う のですが、下から見上げた時に揃って 見えるように、すべて下端揃えにして

荒木●ダイアフラムが近すぎると溶接 しづらくなるので、ひとつの柱に対し て取り付く梁のレベル差をそれぞれの 場所で確認しながら梁の断面を決めて いきました。

平田●梁は役割がそれぞれ違うので、 当然梁せいも変わってくるのですが、 それでもなにかシステマチックにでき ないか検討しました。まずH形鋼の下 フランジの底のレベルが5つあり、そ のそれぞれのレベルに対して梁は必要 な梁せいで載っています。それがいく つか積み重なっていくので、自然と立 体的になっていくというつくり方です。

壁やサッシの納まり

鉄骨フレームの中に壁やサッシが きれいに収まっています。この あたりも苦労されたのではないで しょうか。

外木●鉄骨フレームを際立たせるため に、壁やサッシはフレームの中に収め ています。それにより、雨の問題に対 しては考えなくてはいけませんでした。 |例えば、ガセットプレートはピン接合 なので、ボルトのところにわずかに隙 間が発生しますが、そこから水が入ら ないようにガセット隠しをつくりまし

松田●大まかに外壁の納まりは13種 類あります。フレームが現しである柱・ 梁勝ち、または壁で覆われる壁勝ちの 2パターンをベースに、梁せいの違い、 壁、サッシ納まりの違いで13種類の 納まりを展開し組み合わせています。

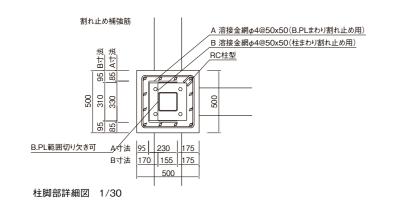
平田●目的としてはやはり鉄骨の部材 がある程度通っていて、鉄骨でできた レイヤーが透けて見えるような感じに

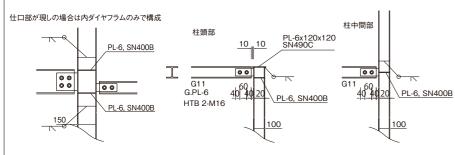


スチールデザイン No.42 スチールデザイン No.42



鉄骨建て方





鉄骨柱梁接合部詳細図 1/30

したいので、それが見えるようにディ テールを調整していきました。交点の 部分も見えるようにしたいのですが、 雨仕舞いも担保しなくてはいけないの で、そこは特殊なプレートで押さえた りして、ディテールに気をつけながら 設計しました。最終的には現場とも相 談しながら決めていきました。

外木●何でも覆ってしまうと鉄骨が隠 れてしまうのですよね。そうではなく て、鉄骨のフランジのエッジがきちん

と見えるようにディテールを考えてい きました。覆うプレートも少し奥に取 り付けることで、フランジのエッジが 出るように注意しました。

松田●内部空間を囲っているフレーム には壁やサッシが入り、いろいろな納 まりがあり、場所ごとにディテールが 異なります。

荒木●この建物はブレース構造なので 壁の中など各所にブレースが入ってい るのですが、壁の厚みが薄いので、そ の中にブレースもガセットプレートも ボルトもきれいに納めなくてはならな くて、そこはかなりシビアに設計しま した。フラットバーのブレースを使用 していますが、ボルトの向きやガセッ トプレートに対するブレースの取り付 けの向きなどをきちんと決めておかな いと、壁の厚みの中に入りません。

壁の厚みと柱のサイズを教えてく ださい。

松田●壁はいちばん厚いところで 216mmですが、ブレースは60mmく らいの中に収めてほしいとお願いしま した。

荒木●柱は基本150角の角形鋼管です。 屋外で現しになっている部分は100角 の角形鋼管で、梁の見付も100mmです。

現し部分には 内ダイアフラムを採用

柱の断面はどのように決められた のでしょうか。

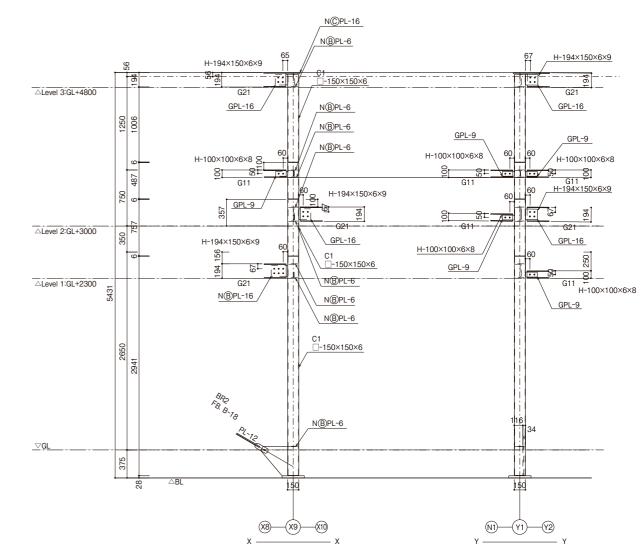
荒木●目標の値を設定して、それを実 現させるために必要なところにブレー スを入れていくように考えていきまし た。同時にスパンも検討しました。

それから、ガセットプレートの取り 付ける向きにも気を遣いました。

松田●2点注意していて、ピロティか ら入った時に、鉄骨の下端が揃って見 えるように注意しました。例えば、ガ セットプレートもピロティから入った 時に見えないようにしています。それ から、水の問題があるので、外部に対 しては全部室内側にガセットがくるよ うにしています。

接合部を現しにする箇所は内ダイア フラムにしています。それが柱ごとに すべて違うのです。内ダイアフラムは 通しダイアフラムに比べて費用が掛 かるので、できるだけ数を少なくし ようとしたのですが、それを1つずつ チェックしていくのは大変でした。

荒木●だいたいが梁の上下にダイアフ ラムを入れる通しダイアフラム形式な



鉄骨柱詳細図 1/50

のですが、現しになる部分は柱を梁の 上下で1度切って、柱の中にダイアフ ラムを入れてから柱同士を溶接でつな ぐ内ダイアフラム形式にしました。場 所によっては梁が2方向から、また何 段かに分かれて取り付くものもあるの で、そうするとダイアフラムが入れら れないようなところが出てきたり……。 そのあたりは、見せたくない場所、見 えてもいい場所など、それぞれの箇所 でどのようにするか確認しました。

そうすると鉄骨の制作も建て方も 気を遣いますね。

松田●建て方の時は、やはり柱の面を 間違えないようにかなり注意されたそ うです。

花輪●検査に行ったら、ガセットプ

レートが逆に取り付いているところが あり、修正をお願いしたりもしました。 とても複雑だったと思います。

建て方はどのような順番で進めら れたのでしょうか。

松田●最初にレストラン棟 (E棟) を建 てて、次にオフィス、ギャラリーとい う順に建てていきました。中庭の細い 材は調整しやすいこともあり、いちば ん最後に建てました。

柱脚はどのようになっていますか。

荒木●露出形の柱脚です。当初ラーメ ン構造で考えていた時は、埋込柱脚を 考えていましたが、最終的にはブレー ス構造とし、柱脚は露出、柱梁の接合 はピン接合としています。

横に広がる配置計画

その他に、設計上苦労された点は ありますか。

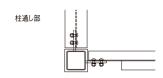
外木●私は意外と躯体勾配のところが 厄介だったような気がしています。

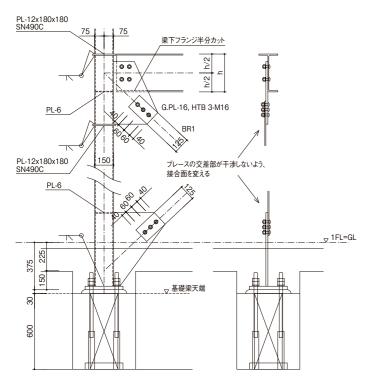
松田●屋根をできるだけ薄くするため に躯体勾配を取っています。勾配は 1/100です。

外木●躯体勾配の部分に逆勾配で庇を



10 スチールデザイン **No.42** スチールデザイン No.42





ブレース接合部詳細図 1/30

つけなくてはいけなかったり、いちば ん上だけ斜めになっているのに他は水 平なので、それらが同時に見えても気 にならないように見せるのに苦労しま した。

オフィス、レストラン、ギャラリーと、用途の異なるものが入った建物ですが、プランはどのように考えたのでしょうか。

平田●事務所と研修などを行う教室と 実習室はくっついていたほうがいいけれど、残りのブロックはそれぞれ違う 役割を持っていて、とくにレストランは一般のお客様も来られるということでがいぶ機能が異なるので、中庭をはさんでレストラン(E棟)と事務棟(W棟)が並ぶように配置しました。そうすることで国道沿いにある程度大きな幅をもった建物になるようにして、鉄塔とのバランスを取ることを考えました。2階にあるギャラリーは限られた人だけが入るような使い方で、かつ事務所と近い位置付けだったので、事務 棟にくっつけています。その下は屋根付き駐車場となるピロティで、ここからは雨が降っても車から濡れずにオフィスやギャラリーに入ることができます。

一方で、レストランへはこのゲート 状のピロティを越えて、ギャラリーと レストラン2階を結んでいるブリッジ があり、このブリッジを屋根のように して入ります。実はレストランの2階 はVIPルームになっていて、ここから ブリッジを通って直接ギャラリーに 行くことができるようにしています。 VIPルームからは中庭がきれいに見え たり、フレームを介して向こうの建物 が見えたり、建物全体の中でもいい場 所に設けています。

用途は違ってもいろいろな関係性があり、それを配置で解決しながら1つに結びつけた計画になっています。

中庭には植栽が見えますが、この 配置はどのように考えられている のでしょうか。 平田●フレームの中にぴったり収めるのではなく、にょきにょきとフレームからはみ出てきたり、横断していたり、グリッドとは違うものが入ってくるようなイメージで配置しました。それは太田の街の雰囲気を翻訳したような部分もあって、まったく同じではないのですが、どこか似ている、街と響き合っている、そういうことを目指しました。

隣に鉄塔があることによって、物 理的な制約もあったのではないで しょうか。

花輪●はい、電線との水平の離隔距離が決められていて、建築する高さにも制限がありました。ですから、敷地内の配置に気をつけたのと、電線に鳥が止まり糞を落とすことが考えられるので、レストランの屋外席は電線からできるだけ離して見えない位置になるように計画しました。

松田●高さ制限では、コンクリートを 打設する時のアームの高さにも制限が ありました。高さ24mまでしか伸ば せなかったので、施工も苦労されてい ました。

平田●篠原一男設計の「高圧線下の住宅」は、屋根が高圧線の懸垂曲線から一定の距離をとった形になっていますよね。この建物はそのような高圧線とダイレクトな関係ではありませんが、線がたくさん走っている風景と、この建物のラインと、そこにいろいろな空間が関係付けられていることがどことなく響き合うようにしています。風景に開かれ、外にあるものとつながっていく、鉄塔の隣に建っていることを我々はそう解釈しました。そこに対して、注意深く考えられ、管理された鉄骨のフレームが非常に重要な役割を果たしています。

半透明の屋根が架かっている部分 もありますね。22条区域でも使え るものなのでしょうか。

松田●これはポリカーボネートです。 ここは準工業地域で22条区域ですが、 使うことができます。ブレースを守る ために、ブレースがあるところに架け ています。



W棟事務室 カウンターや壁に波板を使っている

荒木●中庭の構造体は、中庭のためだけにあるのではなくて、互いの棟をつなぐ役割を果たしているので、必要なところに丸鋼ブレースを入れています。

鉄骨フレームを シャープに見せる配色

建物全体の色はどのように決めた のでしょうか。

平田●色を決めるのは意外に迷いました。最終的に真っ白にして、今はそれで良かったと思っていますが、鉄塔がグレーなのでこちらも少しグレーにすることも想像していました。現場でサンプルを道路沿いに置いて、「何が正解かわからないね」と言いながら考えました。

それから、外壁のガルバリウム鋼板の色が微妙にクリーム色なんですが、その場合鉄骨フレームの色はどうしたらいいのか。結局、N-95という真っ白な色にしました。駅前につくった「太田市美術館・図書館」の外壁が真っ白

で、我々の建物が同じ国道沿いに並ぶ のだったら白で統一するのもいいので はないかと思ったりもしました。

考え方が全然異なる2つの建物ですが、どこかで響き合い、大きな風景の広がりに対して布石を打つようにするのも今回の建物そのものの考え方ともどこか近いので、そういうこともあって最終的に白にしました。設計中の太田西図書館の色はまだ決まっていません。

白の塗装は施工上難しいイメージがありますが、材料選定などで工 夫された点はありますか。

松田●耐久性の高い塗料を選びました。 外部はフッ素樹脂塗装、内部はSOP 塗装にしています。塗料が違うと白で もやはり色味が微妙に違うので、内部 は外部の色に合わせて色を確認しなが ら進めました。

平田●真っ白を選んだけれど、ちょっとだけクリーミーな色合いだったのですよね。なかなか難しいものだなと思いました。逆に外壁は青白い波板と少

しクリームがかった波板があったのですが、耐久性も含めてクリームがかった波板を選びました。

白でも少しずつ色味が違うと、その違い方によっては違和感を感じることがあります。結構そういうのは気になりますし、建物全体の印象に関わるのですが、この建物は全体でちぐはぐに見えないようにできたと思っています。 外木●シーリングの色も細かく議論しました。サッシは白ではないほうが鉄骨の躯体が見えますが、サッシと躯体との間の色を何色にするか。やはり柱ができるだけシャープに見えるように考えました。

平田●サッシよりも少しだけ暗いグレーにしたんですよね。

すべての贅沢は空間を横方向に広げたことでしょう。それだけで贅沢なので、使う素材などは必要なものを必要なところに使っているだけです。その使い方が不自然なものにならないように、バランスを考えるのがいちばん苦労したところでしょうか。

12 スチールデザイン No.42 スチールデザイン No.42



国道側からの夜景 各棟互いに独立しつつ、つながりを感じる

内装もそういう観点で設計されて いるのでしょうか。

平田●基本的にはそうなのですが、レストランの中や人の手に触れるところは、少しだけ良い木を使ったりしています。

松田●内部と外部をつなげるために外壁に合わせて波板で家具をつくったり、同じ素材を内外で使うことでつながりのある空間に見えるようにしました。オフィスのカウンターや内部の壁にも波板を使っています。

平田●あと鉄骨フレームがそのまま手すりになっている部分もあります。複数のレイヤーがあって、例えば、あるレイヤーともうひとつのレイヤーが1mくらい隔たりがあるところにあり、こちらで梁になっているものが、その先で手すりになったり。場所や高さによって異なる役割を持たせ、それが内装にも現れています。やはりすべての贅沢が鉄骨に集約されていますね。

コンセプトを大事にした しなやかな設計

設計の過程で鉄骨のディテールや 考え方が変化したところはありま すか。

荒木●始めは柱梁の幅を100mmにすることをひとつのルールにする案がありましたが、途中でブレースを入れて解き直しました。

松田●実は当初はピン角の柱で、梁の接合ももっときれいな納まりだったのですが、予算もあり今のかたちになりました。

平田●僕はそこはあまり気になっていません。全部神経質にピン角でできていたらそれはそれできれいだったと思います。でも、そういうところを捨ててもコンセプトである広がっていくイメージを表すほうが大事でした。

贅沢をあるところに集約させてふ わっと広げていくと、建物単体でもっ と大きな広がりの中の贅沢になってい く。そういうことが、ひとつの考え方 として大事なのではないでしょうか。

その時にもちろんディテールも大事ですが、逆に費用がある程度制約されていたが故に、割り切って、切り詰めて考えることで、ひとつの形にしていると個人的には理解しています。

外木●広がったことによって社長室からレストランの奥まで距離ができて、約500㎡の建物ですが、2階のテラスから鉄塔が見えたり、鉄塔までも取り込んだ広い風景につながっているので、倍以上の広がりは実現できたのではないでしょうか。

松田●そうですね。あまり人がいるエリアではないので、離れた棟に人がいる気配を感じるのもいいですし、夕方になると光がそれぞれの棟をつないで安心感が生まれます。

荒木●構造は仕組みとしてはシンプルなので、そういう時につい何かテーマ

を持とうと考えてしまいます。最初の 柱梁幅100mmというルールを崩して ブレースを入れて解き直した時に、そ ういうところにこだわらなくてもディ テールに十分に配慮した建築をつくる ことができることがわかりました。

平田●例えば、何がなんでも無垢の部材を使ったり、ものすごく特殊な溶接を採用して100角で全部統一する。仮にそのコンセプトをそのまま実現させるのがいいという価値観があるとします。一方で、もう少しものが自然にできていくという方法があるとします。そしてその背後にガイドラインとしてコンセプトがあるような場合、どちらが純粋に見えないガイドラインをそのまま実現しようと無理矢理進めるのはスマートではないかもしれません。

お金をかけて特殊な構造にしてそう いうふうに見せるということもできる かもしれないけれど、今後の世界では どうでしょう。この建物は公共建築で はありません。でもパブリックな場で 建築ができていく時の価値観が、無理 して「このコンセプトだからこうだ」 というスタンスの建築のつくり方より も、あるガイドラインとしての考え方 があって、その場所が自然にできちゃ う、できちゃっているということのほ うが僕はしなやかなように聞こえます。 それが最終的にできたものとしてみん ながそうだと感じるかどうかはつくり 手の手腕だとは思いますが、少なくと も考え方としては新しいしなやかさの ほうがいいかなと個人的には思ってい ます。

鉄骨造だからできること

最後に、鉄骨造の魅力や、鉄骨に 対してご要望などありましたらお 聞かせください。

荒木●私は鉄骨を扱うのは好きです。 力学を考える時、建物を抽象化してシンプルなラインに置き換えてイメージ するのですが、彫塑的なRCよりも線 材でできている鉄骨のほうがイメージ しやすいです。RCのように一度に接 合できるというものとは違い、部材の バリエーションもあれば、納め方のバ リエーションも考え方によってはいく らでも生み出せて、ほどよい自由度も あるのでそこに面白さを感じています。 外木®設計者によってディテールに個 性が出るのも面白いですよね。

荒木●そうですね。

外木●材料については、わかってはいるものの、角形鋼管などはサイズが大きくなればなるほど角のRも大きくなるのが悩ましいですよね。もう少しシャープになったらと思います。

荒木●そうですね、板厚で決まってしまいますから、分厚くなるとかなり角が丸くなってしまいますね。

松田●鉄はリサイクルできるので、そういう点でも今の時代に合っていると思います。鉄骨材をちがう建物に再利用することもできるかもしれません。

平田●鉄骨は考え方の軽さがあるのが 魅力ですよね。だから鉄骨は好きです。 鉄骨造でもRC造でもありえるような 建物の場合は、どちらを採用するかは 価格などリアルな側面に影響されます。 でもこの建物はRCで置き換えること は無理ですね。設計の考え方からして、 鉄骨造でないとつくることができない 建物にもっとチャレンジしていきたい

RC造は構造体以外の部分も隙間等を埋めてしまえば抽象的に処理できてしまいます。一方、鉄骨造は柱の形や大きさ、ブレースが必要かどうかなど構成が見えてくるところが魅力です。純粋に幾何学だけで解こうとしてもそれだけでは終わらないということも体験しているので、それも面白いと思っています。鉄骨はなかなか奥が深いですわ

貴重なお話をいただき、ありがと うございました。

(2023年7月5日 平田晃久建築設計事務所)

OTA Lines

所在地 群馬県太田市脇屋町826-1 建築主 株式会社アルブル 羽柴江里子 主要用途 オフィス、レストラン、ギャラリー 面積 敷地面積:1.652.12㎡

製地面積 : 1,652.12 m 建築面積 : 346.05 ㎡ 延床面積 : 497.14 ㎡

構造鉄骨造階数地上2階最高高7,140mm軒高6,990mm

建築設計 平田晃久建築設計事務所 構造設計 荒木美香構造設計事務所

(現 Graph Studio) 設備設計 EOSplus (電気)

アミージュ企画設計 (機械) 施工 関東建設工業

設計期間 2020年7月~2021年12月 施工期間 2022年2月~2023年1月

写真提供: Daici Ano

p.1 (表紙)、p.2-3 (中表紙)、p.5上、p.7、p.9、p.13、p.14

平田晃久建築設計事務所 p.5 中、p.10

設計者プロフィール

平田晃久(ひらた あきひさ)

1971年 大阪府生まれ

1994年 京都大学工学部建築学科卒業 1997年 同大学大学院修士課程修了 1997~2005年 伊東豊雄建築設計事務所 2005年 平田晃久建築設計事務所設立 2015年~京都大学准教授、現在、同大学教授

外木裕子(とのぎ ゆうこ)

1978年 静岡県生まれ

2000年 昭和女子大学生活美学科卒業

aat+ヨコミゾマコト建築設計事務所、篠崎健ー 創建一級建築士事務所を経て、 2006年~平田晃久建築設計事務所

松田彩加(まつだ あやか)

1981年 石川県生まれ

2005年 名古屋市立大学芸術工学部卒業

2007年 横浜国立大学工学部修士課程修了 2009年 Berlage Institute 卒業 西沢立衛建築設計事務所を経て、 2013年 平田見久建築設計事務所入所

2013年 平田晃久建築設計事務所入所 2021年 松田彩加建築設計事務所設立

花輪優香(はなわ ゆうか)

1994年 岩手県生まれ

2017年 東北大学工学部建築·社会環境工学科卒業 2020年 同大学大学院修士課程修了

2020年 同大字大字院修士課程修 」 2020年~平田晃久建築設計事務所

荒木美香(あらき みか)

1984年 神奈川県生まれ

2006年 東京大学工学部建築学科卒業

2008年 同大学大学院工学系研究科建築学専攻

修士課程修了

2008 ~ 2019年 佐藤淳構造設計事務所 2020 ~ 2023年 荒木美香構造設計事務所 2021年~関西学院大学建築学部准教授

2023年~ Graph Studio

14 スチールデザイン No.42



一般社団法人 日本鉄鋼連盟 建築委員会

東京都中央区日本橋茅場町 3-2-10 Tel.03-3669-4815 Fax.03-3667-0245 https://www.jisf.or.jp 編集協力:株式会社建報社 2023年9月20日発行